

中堅・中小企業のオーナー社長にとって、次の世代に事業をどう承継していくかは大きな問題だ。最近では、M&A(合併・買収)を活用した事業承継が増加している。実際に事業承継型M&Aを成功させるには、何が力があるのか。6月10日に開かれた日経産業新聞フォーラム2014「経営者のための事業承継・M&A活用セミナー～次世代に何をどう引き継ぐか?～」の模様をリポートする。

譲渡決断の経緯～そして今、思うこと～

クラカタ商事 名誉顧問 藏方 肇氏



池ヶ谷 今年2月、M&Aで株式を譲渡されたクラカタ商事さんは、創業38年のビルメンテナンス会社です。まずは、もともと持つておられた事業承継に対する考え方と、M&Aを検討されるようになつた経緯についてお伺いします。

藏方 やはり希望として息子への事業承継を考えていたが、社内の仲間に設備を貸して経営を委ねるのも一つの方法だと思っていた。外の企業で働いていた息子が、約束の年数を過ぎてもなかなか戻つ



モデルーター
M&Aキャピタルパートナーズ 営業4部部長 池ヶ谷 博章氏

ここなったからである。M&Aを選択肢に加えたのは、具体的な対策を考えはじめた頃に、たまたまM&Aキャピタルパートナーさんから電話をもらったのがきっかけだ。検討を進める過程で、息子とは時間をかけて何度も話し合つ

た。私が一番悩んだのは、ずっと社外にいた者が果たしてうまく会社を動かしていくのかどうかである。下手をしたら、息子にも社員にも苦労を背負わせることになるかもしれないという懸念を拭いきがなかった。

M&Aは結婚に似ている
この縁とタイミングが重要

た。私が一番悩んだのは、ずっと社外にいた者が果たしてうまく会社を動かしていくのかどうかである。下手をしたら、息子にも社員にも苦労を背負わせることになるかもしれないという懸念を拭いきがなかった。

藏方 譲渡先の企業が絞られ、社長や役員の方との面談を重ねる中で、相手先の熱意や誠意が非常によく伝わってきた。一番心配だったのは、一緒に働いてきた仲間の将来だが、社員の待遇も社名も今のまま変わらぬことばかりだ。検討を進める過程で、息子とは時間と空間をかけて何度も話し合つ

た。もう一つは税金面だ。モノを動かせば税金がかかります。末上場会社の株式であってもキャピタルゲインの税率が20%というのは、オーナー経営者にとっては大きなメリットだ。これによつて将来の相続の問題も半分くらいは解消したこと考

えておられた事業承継に対する考え方と、M&Aを検討されるようになつた経緯についてお伺いします。

～総括～ 事業承継・M&A成功のポイント

M&Aキャピタルパートナーズ 代表取締役 中村悟氏

池ヶ谷 M&Aによる事業承継では、オーナー、会社、従業員、買い手企業など、全ての関係者にメリットがあることが重要です。当社はこれからも中小・中堅企業の発展的な事業承継をサポートしていきます。

藏方 やはり希望として

社員・取引先・家族を守り

発展的な事業環境を整える

池ヶ谷 まず、M&Aによる事業承継は、オーナー、会社、従業員、買い手企業など、全ての関係者にメリットがあることが重要です。当社はこれからも中小・中堅企業の発展的な事業承継をサポートしていきます。

藏方 やはり希望として